

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立東陵中学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>  
☒ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒440-0006  
愛知県豊橋市牛川町字乗小路32番地の35  
E-mail toryo-j@toyohashi.ed.jp  
Website www.toryo-j.toyohashi.ed.jp  
幼児児童生徒数 男子 232 名 女子 189 名 合計 421 名  
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「誇りをもち夢に向かって、凜として生きる生徒の育成」を活動テーマとして、E S D を「自分を取り巻く社会生活において、持続可能な社会が実現できるような価値観の育成」と捉え、E S D の実践を通して「自他を尊重し、協力して生きる力」の育成を目標とした。

具体的には、食育、持続可能な生産・消費、環境、福祉を柱に、①残食ゼロに係わる活動、②食品ロスに係わる学習、③地域・河川の清掃に係わる学習活動、④身の回りの福祉に係わる学習を行った。

### ① 残食ゼロに係わる活動

本校では、給食の残食量を減らす取り組みを学校全体で行っている。活動を始める前は当該調理場において残食量が最下位に近かったが、今では最も残食量が少なく、毎日食缶を空にすることができている。生徒は食事自体や生産者・調理者への感謝、「もったいない」の精神のもと、自発的に残食をなくす努力をしており、本校の伝統として生徒自身が誇りに思っている。継続した取り組みを可能にするために、給食当番がすばやく準備をすることによる会食時間の確保、余らないような均等な盛り付け、余った場合のルールの設定など、各学年・学級において工夫を凝らして取り組んでいる。

## ② 食品ロスに係わる学習

2年生家庭科の授業の中で、全校で取り組んでいる残食ゼロの取り組みを切り口に、日本における食料生産や自給率、飲食店や給食などで大量の食品が処分されていることを学んだ。それをもとに、これからの生活においても持続可能な社会を実現するために自分にできることを考えたり、発信したりした。食材が世界とつながっていることに気づいた生徒たちは、食品ロスが社会全体で減るように、校内だけではなくPTAバザーなどの場で食品ロスのまとめ新聞による発信などをした。

## ③ 地域・河川の清掃に係わる学習活動

1年生の総合的な学習の時間において、校区内の公園と朝倉川の清掃活動を行った。公園や朝倉川には想像以上にごみや廃棄物が見られることに気づいた生徒たちは、自分たちの生活のすぐ近くに問題意識をもって取り組んだ。また、生徒一人一人が将来の地域の担い手であることを意識し、よりよい地域に自分たちがしていこうという思いをもって取り組んだ。公園と朝倉川の2チームに分かれて清掃活動を行い、きれいになった地域を保っていきたいという思いをもつことができた。

## ④ 身の回りの福祉に係わる学習

町の中に溢れているさまざまなユニバーサルデザインについての学習を行い、ちょっとした工夫により、誰にでも住みやすい町づくりがなされていることに気づいた。11月、12月には社会福祉協議会との連携のもと「福祉体験教室」を行い、手話、点字、車いす、高齢者疑似体験の四つの講座を体験した。生徒の感想の多くには「身近に困っている人を見かけたら声をかけて助けてあげたい」という声が挙げられていた。生徒は、町の中に見られる工夫により住みやすくなっていることに気づいた反面、まだ不便なことがたくさんあるという実感をもった。



← 残食ゼロの取り組み



← 食品ロスについての発信



← 朝倉川クリーン作戦



← 福祉体験教室の様子

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

##### 【書籍】

- ・さがしてみよう！まちのバリアフリー 1～5（小峰書店）
- ・ふれあいの手話 1～4（学研プラス）
- ・世界がもし 100 億人になったなら（マガジンハウス）
- ・フードバンクという挑戦 貧困と飽食のあいだで（岩波現代文庫）
- ・賞味期限のウソ（幻冬舎新書）
- ・コンビニ店長の残酷日記（小学館新書）
- ・食からみえる「現代」の授業（太郎次郎社エディタス）
- ・たべものがたり 食と環境 7の話（ダイヤモンド社）

##### 【DVD】

- ・「福祉・ボランティア学習ビデオ」（豊橋市社会福祉協議会）
  - ①ともに生きる！～障害のある人のくらしから
  - ②ふだんの くらしの しあわせ（ふ・く・し）  
豊橋の福祉サービス あ・れ・こ・れ
- ・もったいない！（T&K テレフィルム）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

食品ロスに係わる学習については、単元をとおして、課題解決型の学習過程を重視した構想を立てることで、生徒一人一人が自発的に持続可能な社会の将来について考えられるように計画した。福祉に係わる学習では、年間を通して継続的に追究活動を行えるように計画した。また、体験活動や調べ学習に必要感がもてるように計画することで、学習効果が高まるように配慮した。朝倉川の清掃活動についても、地域や社会とのつながりおよび、環境保全に対する意識を高めたうえで活動を行った。さらに、総合的な学習の時間における取り組みについては、教科横断的な指導計画を立てることで、教育活動全体のつながりを意識して指導にあたっている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

残食ゼロ活動については、単なる学級指導や給食時の指導だけにとどまらず、特別活動や短活、委員会を有効に活用し、話し合いの場を設定したり、呼びかけや掲示物による発信をしたりできる体制を整えている。年度当初に職員の間で共通理解を図るいっぽうで、給食委員会を中心に生徒自身の手で自発的、継続的に取り組めるように、残食ゼロの歴史のグラフ化、校内放送を使った呼びかけ等を行ってきた。今では、本校の伝統として生徒自身が誇りをもった活動になっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

食品ロスに係わる家庭科の学習活動において、単元の山場である「自分たちにできる取り組み」についての授業を教員全員で参観し、授業及び単元全体に関して研究協議会を行った。具体的な方策を語る生徒の姿から、生徒の個人追究の深さが明らかになり、課題解決型の学習の成果を見て取ることができた。授業にあたっては本市の教科指導員の協力を仰いだ。生徒たちが食品ロスや食材を通して世界とのつながりを感じたり、持続可能な社会の未来に向けて考えを深めたりできるようにご指導をいただき、本校の教員にとってESDに関する取り組みの理解を深めることができた。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

食品ロスに係わる学習では、学習のまとめを個人やグループごとに画用紙にまとめたものを、校内だけではなく、PTAバザーにおいても掲示することで、他学級や他学年はもとより、地域や保護者にも、活動成果を発信した。福祉に係わる学習についても、学校新聞に掲載することで、保護者に活動内容を発信し、ESDに関する活動の理解、啓発につなげることができた。また、本校でのESDの取り組みについて、模造紙にまとめたものをユネスコスクール豊橋大会において掲示した。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

福祉に係わる学習について、本市社会福祉協議会との連携を図って福祉体験教室を実施した。11月と12月に1回ずつ、ボランティア講師を延べ20名程度派遣していただいた。豊橋中央図書館と連携して福祉に関する書籍をお借りし、生徒の個々の課題解決に役立てることができた。豊橋教育会館からも福祉に関するDVDを貸していただき、学年全体で視聴をすることで、バリアフリーなどの身の回りの福祉の理解を深めることができた。

食品ロスに係わる学習についても中央図書館から書籍を借りたほか、食品ロスの取り組みや考えについて、一般企業への電話調査を行った。なお、企業への電話はあらかじめ教員が承諾をいただいたうえで行った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール豊橋大会において、市内各校のポスターセッションや優れた実践(授業)を参観したり、研究協議会へ参加したりすることで、本校の実践に生かせる取り組みや考え方を学ぶことができた。特に、子どもたちが住む地域に根差した活動への取り組みが、持続可能な社会の将来へとつながることが実感できた。また、本校のESDへの取り組みについてまとめたポスターを作成し、多くの先生方に見ていただくことができた。今後も、市全体で交流を深め、学び合う機会を有効に活用していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

残食ゼロ活動について、家庭科の授業で「食品ロス」という昨今の課題と結びつけて考えたことで、生徒は、より高い課題意識をもって日々の残食ゼロ活動に取り組むことができた。福祉に関する学習では、いくつかの体験活動をとおして、自分の身近にある工夫や配慮をまのあたりにすることで、「身近に困っている人を見かけたら声をかけて助けてあげたい」という思いをもつことができた。教員の立場としては、朝倉川の清掃など、これまで本校で取り組んできた活動についても、ESD の視点をもとに見直すことで、新たな価値観をもって計画、実践することができた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ESD の実践が、生徒の思考に沿った課題解決型のものになるように、授業研究協議会などの現職研修や、教科・領域の部会での話し合いの場を活用し、授業のあり方について教員同士で理解を図り、より質の高いものになるよう計画していく。

これまで行ってきた教育活動についても、ESD の視点から取り組みを見直すことで新たな価値を見出し、生徒に身につけたい力を明確にしたうえで実践していく。

残食ゼロ活動については、今年度実施した食品ロスの観点を新たな価値観として踏まえ、学校全体で継続して取り組んでいく。そうすることで、持続可能な生産と消費、及び食育の観点において、生徒の価値観を高めることにつながると考える。

朝倉川の清掃活動については、将来にわたって地域の担い手となる生徒自身が、地域における環境保全及び住みやすい町づくりについての考えをもったうえで行えるように計画していく。本校の生徒にそうした視点や価値観が育つことで、地域全体における ESD 活動の理解が広がっていくと考える。